



平成24年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年5月11日

上場会社名 株式会社東急レクリエーション
 コード番号 9631 URL <http://www.tokyu-rec.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長
 四半期報告書提出予定日 平成24年5月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 佐藤 仁
 (氏名) 堀江 真二郎

TEL 03-3462-8870

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期第1四半期の連結業績(平成24年1月1日～平成24年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第1四半期	6,718	7.9	△25	—	△45	—	33	—
23年12月期第1四半期	6,225	△21.2	△272	—	△298	—	△1,460	—

(注) 包括利益 24年12月期第1四半期 141百万円 (—%) 23年12月期第1四半期 △1,542百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第1四半期	1.14	—
23年12月期第1四半期	△49.73	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年12月期第1四半期	44,795	19,541	43.6	665.43
23年12月期	45,100	19,400	43.0	660.61

(参考) 自己資本 24年12月期第1四半期 19,541百万円 23年12月期 19,400百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年12月期	—	—	—	—	—
24年12月期(予想)	—	3.00	—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年12月期の連結業績予想(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,076	17.3	158	—	70	—	35	—	1.19
通期	31,942	18.0	788	—	602	—	309	—	10.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年12月期1Q	31,937,474 株	23年12月期	31,937,474 株
24年12月期1Q	2,570,943 株	23年12月期	2,569,426 株
24年12月期1Q	29,367,542 株	23年12月期1Q	29,371,370 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、【添付資料】3ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	3
追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により景気が停滞するなかで、各種政策効果により緩やかながらも持ち直しているものの、欧州政府債務危機等を背景とした海外経済の減速や急激な円高の進行などの影響から、依然として先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、前期において不採算事業所の閉鎖等のリストラクチャリングを行うことで、収益構造の改善を全社をあげて進めるとともに、映像事業、スポーツ・レジャー事業、不動産事業の3事業ともに、積極的な営業活動を行ってまいりました。

この結果、売上高は6,718百万円(前年同期比7.9%増)となりましたが、営業損失は25百万円(前年同期は272百万円の営業損失)、経常損失は45百万円(前年同期は298百万円の経常損失)となり、四半期純利益は投資有価証券売却益等を計上したことにより、33百万円(前年同期は1,460百万円の四半期純損失)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 映像事業

当第1四半期連結累計期間における映画興行界は、昨年の不振を引きずる形で幕をあげ、邦画・洋画ともにヒット作品に乏しく、業界全体としては厳しい状況下でのスタートとなりました。

このような状況のなか、映画興行事業におきましては、前期より推進しております映画館のフルデジタル化に伴う上映環境の整備を順次進めるとともに、空調管理システム、LED照明の導入などによる効率的な運営と徹底したコスト管理に努めてまいりました。また、昨年11月に開業いたしました「109シネマズ湘南」が好稼働し、収益に寄与いたしました。

当第1四半期連結累計期間の上映作品といたしまして、邦画では「ALWAYS 三丁目の夕日'64」「映画ドラえもん のび太と奇跡の島 ～アニマル アドベンチャー～」、洋画では丸の内ルーブル系で全国公開いたしました「シャーロック・ホームズ シャドウ ゲーム」をはじめ、「ドラゴン・タトゥーの女」「ミッション：インポッシブル/ゴースト・プロトコル(IMAX®版)」「長ぐつをはいたネコ(IMAX®3D版)」などが、好評を博しました。

映像関連事業といたしましては、2月に「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2012」の開催にあたり、当社のノウハウを活かした企画協力・運営業務を受託し、地域における映像文化の発信に努めてまいりました。

しかしながら、当事業を取り巻く環境は依然として厳しく、売上高は2,986百万円(前年同期比13.6%増)、営業損失は140百万円(前年同期は313百万円の営業損失)となりました。

② スポーツ・レジャー事業

ボウリング、フットサルの両事業におきましては、各施設において快適に競技を行える施設の運営に努めるとともに、多彩なニーズに対応した各種大会を行い、地域の特性に合わせたサービスの提供に努めてまいりました。また、スクールや会員交流を目的としたイベント等も充実させ、顧客満足度の一層の向上をはかってまいりました。

また、コンビニエンス事業におきましては、3月に「ファミリーマート赤羽平和通り店」(北区志茂)を開業し、各店舗において季節型商材の積極的な販促並びに効率的な店舗運営に努め、収益の拡大をはかってまいりました。

さらに飲食事業におきましては、「食彩健美 野の葡萄」「モスバーガー」の各店舗ともに充実したメニューを揃えるとともに、改装工事の実施や施設のクレンリネスの徹底などを行い、清潔で快適な店舗運営を推進してまいりました。

この結果、当事業の売上高は1,250百万円(前年同期比1.2%増)となり、営業利益は31百万円(前年同期は7百万円の営業損失)となりました。

③ 不動産事業

不動産事業におきましては、中・小オフィスビルの空室率は依然として高く、賃料減額改定により賃料水準も下落を続け、当事業の中心である商業ビルにおきましても、テナント企業からの賃料見直しや誘致競争の激化など、引き続き大変厳しい事業環境となりました。

このような状況のなか、「駒込駅前ビル」(豊島区駒込)などの当社直営ビル、マスターリースビルの双方において、オーナー並びにテナント企業に対し、きめ細やかな対応を重ね、継続的に信頼関係を築きながら、付加価値の高い魅力的なビルとしての運営を行ってまいりました。

また、ホテル事業につきましては、さらなる顧客満足と稼働率向上をはかるため、昨年9月より「広島東急イン」の改装工事を実施し、1月に宿泊主体型の「ホテル東急ビズフォート広島」として、リニューアルオープンいたしました。

この結果、当事業の売上高は2,078百万円(前年同期比2.3%減)となり、営業利益は286百万円(前年同期比3.7%増)となりました。

④ その他

ビル管理事業におきましては、オフィスビルを中心にビルメンテナンス・安全管理における高いニーズに応えるとともに、クオリティーの高い技術力とサービスの提供に努めてまいりました。

アミューズメント事業におきましては、都心に展開しているゲームセンター「G-R E C' S」での、快適な店舗の運営に努めてまいりました。

また、流行発信ショップ「r a n K i n g r a n Q u e e n (ランキンランキン)」は、ブランドの価値向上をはかりながら、話題の商品・情報を提供していくとともに、安定した収益基盤の構築に努めてまいりました。

この結果、これら事業の売上高はランキン事業が寄与し、401百万円(前年同期比74.0%増)となり、営業利益は24百万円(前年同期比101.4%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産、負債、純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ304百万円減少し、44,795百万円となりました。これは主に現金及び預金が172百万円、投資有価証券が171百万円増加し、その他(未収入金)が394百万円、有形固定資産が297百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ445百万円減少し、25,254百万円となりました。これは主に短期借入金が増加し、500百万円増加し、その他(未払金)が867百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ140百万円増加し、19,541百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金が増加し、107百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

景気は緩やかながらも持ち直しているものの、引き続き海外経済の下振れなどを背景とした企業収益の悪化、個人消費の低迷が懸念されますが、当初計画の範囲内で推移しており、平成24年2月13日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	712,609	885,569
売掛金	799,267	794,952
商品	195,061	167,418
貯蔵品	50,003	69,513
繰延税金資産	311,044	258,487
その他	3,898,897	3,545,125
貸倒引当金	△3,887	△3,968
流動資産合計	5,962,995	5,717,099
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,011,870	10,819,155
土地	10,677,011	10,677,011
その他(純額)	2,081,989	1,977,198
有形固定資産合計	23,770,871	23,473,366
無形固定資産		
投資その他の資産	1,057,599	1,069,742
投資有価証券	2,288,561	2,459,700
差入保証金	9,536,371	9,587,139
繰延税金資産	849,205	837,804
その他	1,636,275	1,652,395
貸倒引当金	△1,135	△1,293
投資その他の資産合計	14,309,277	14,535,747
固定資産合計	39,137,748	39,078,855
資産合計	45,100,744	44,795,955

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,533,593	1,473,062
短期借入金	3,500,000	4,000,000
1年内返済予定の長期借入金	623,301	620,449
未払法人税等	14,754	20,262
引当金	27,800	84,580
その他	3,020,237	2,162,338
流動負債合計	8,719,687	8,360,694
固定負債		
長期借入金	2,296,171	2,291,039
再評価に係る繰延税金負債	2,829,342	2,829,342
退職給付引当金	279,973	291,902
資産除去債務	1,362,924	1,368,561
受入保証金	7,237,897	7,193,930
その他	2,973,892	2,919,167
固定負債合計	16,980,201	16,893,942
負債合計	25,699,889	25,254,637
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,028,813	7,028,813
資本剰余金	7,061,184	7,061,184
利益剰余金	2,088,180	2,121,722
自己株式	△1,379,237	△1,379,936
株主資本合計	14,798,941	14,831,784
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△254,008	△146,387
土地再評価差額金	4,855,921	4,855,921
その他の包括利益累計額合計	4,601,913	4,709,533
純資産合計	19,400,854	19,541,317
負債純資産合計	45,100,744	44,795,955

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)
売上高	6,225,052	6,718,542
売上原価	6,251,079	6,516,061
売上総利益又は売上総損失(△)	△26,027	202,480
販売費及び一般管理費	246,299	228,346
営業損失(△)	△272,327	△25,865
営業外収益		
受取利息	4,529	7,180
補助金収入	—	21,070
償却債権取立益	—	9,347
その他	2,004	2,983
営業外収益合計	6,533	40,581
営業外費用		
支払利息	23,432	52,440
持分法による投資損失	6,333	3,976
その他	2,647	3,532
営業外費用合計	32,414	59,949
経常損失(△)	△298,207	△45,233
特別利益		
投資有価証券売却益	—	69,999
退店補償金収入	—	54,518
その他	—	426
特別利益合計	—	124,944
特別損失		
固定資産売却損	—	163
固定資産除却損	1,624	2,595
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	520,911	—
店舗閉鎖損失	61,068	5,980
支払補償金	25,000	25,000
災害による損失	634,110	—
その他	184	—
特別損失合計	1,242,899	33,739
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	△1,541,106	45,971
法人税等	△80,588	12,429
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△1,460,518	33,542
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,460,518	33,542

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△1,460,518	33,542
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△81,592	107,620
その他の包括利益合計	△81,592	107,620
四半期包括利益	△1,542,110	141,162
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,542,110	141,162
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	映像事業	スポーツ・ レジャー事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,629,752	1,236,064	2,128,215	5,994,032	231,019	6,225,052	—	6,225,052
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	14,599	14,599	234,668	249,267	△249,267	—
計	2,629,752	1,236,064	2,142,814	6,008,631	465,688	6,474,320	△249,267	6,225,052
セグメント利益 又は損失(△)	△313,697	△7,291	275,929	△45,060	12,408	△32,651	△239,676	△272,327

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業、アミューズメント事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△239,676千円には、セグメント間取引消去38千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△239,714千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	映像事業	スポーツ・ レジャー事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,986,830	1,250,914	2,078,930	6,316,676	401,865	6,718,542	—	6,718,542
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	14,599	14,599	226,311	240,910	△240,910	—
計	2,986,830	1,250,914	2,093,530	6,331,275	628,176	6,959,452	△240,910	6,718,542
セグメント利益 又は損失(△)	△140,764	31,090	286,244	176,570	24,992	201,563	△227,429	△25,865

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業、アミューズメント事業、ランキン事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△227,429千円には、セグメント間取引消去9千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△227,439千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。